

今月号の ■ ネット依存 1 日研修会「ネット・ゲーム依存傾向の子どもへのアプローチ」 ピックアップ から見えてきたカリキュラム改善点と課題

6月号ではネット依存 1 日研修会(6/5 開催)の参加状況概要や感想をお伝えしました。今号では参加者の属性・年代と、寄せられた感想からカリキュラム開発つなげる課題を考察してみました。

属性	教育関係	養護教諭	幼児教育	啓発活動	ボランティア	カウンセラー	保護者	その他(医師・医療関係者・行政・事業者)
人数	18	5	2	23	6	6	2	13

年代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	5	14	32	20	4

様々なお立場の参加で、違った視点のご意見をいただく機会となりました。今後のカリキュラム開発に生かしていきたいと思っております。

講義 1 伊藤科研大規模調査から見えてきたネット依存・ネット健康被害全体像について

子どもたちのネット利用と健康被害の現状をもっと多くの保護者・大人が知り、対策を講じる必要があるとの感想を複数寄せいただきました。また、大規模調査への関心は高く、今後結果を公表する事は多くの人々に健康被害について周知できる貴重な機会であり、その重責と啓発の加速化を図るためにさらに輪を広げていかなければと考えております。

講義 2 ネット・ゲーム依存にハマる仕組みと社会的・個人的要因について

具体的なゲームの説明で「人間本来の欲求」を満たす仕組みになっていることや家族構成・子どもの遊びの変化等で依存状態になってしまう社会的要因が理解できたとの感想が多くいただきました。一方、「小児科医として事例に対応する立場からすると、ちょっと突っ込み不足が感じられた。」とのご意見も寄せられました。社会学的な視点で論じてきましたが、医学的視点でも論じられるよう専門家との協働が課題です。

講義 3 ネット依存者・ネット依存傾向者へのアプローチについて

依存者とその家族への寄り添うことの大切を再確認した、また、「信頼障害仮説」が興味深かった、久里浜医療センターの支援のポイントが勉強になったと多数寄せいただきました。他方、「ネット依存になる前にできることがあると思うので、簡単に個人の問題、家族の問題にして放り投げることはできない」「助けて」と言える心理状態、そしてそれを受け入れる社会が大切」と感想もありました。講義時間に制約がありますが、もっと大きな視点で「依存」を見つめることも必要でしょうか。

講義 4 ネット依存予防教育モデル授業(中学生対象)

多くの参加者から、ルール作りで終わるのではなく、手立ても考えるという手法等とても参考になったという感想が寄せられました。一方、内容が多すぎ実際の授業で終わるのか、「長時間は良くない」と分かっている子どもたちの行動改善につながらないのでは、といったご意見もありました。自分のスマホをもっていない、又は使いこなしている生徒が自分事として考えるために更に工夫が必要です。

その他の講義

- * 「アウトリーチで散見する子どもたちのネット」
- * 「ネット依存当事者から」

「アウトリーチの活動に感銘を受けた」「今後の支援の参考にしたい」「当事者のお話を聞く機会が少ないので貴重なお話が聞けた」「当事者のお話を伺い、日頃の子どもへの対応を反省し、今後につなげていきたい」など、大変良かったと感想が多く寄せられました。

それぞれの当事者だからこそ、その思いに共感が広がったのではないのでしょうか。

地域会場チーフの感想

北海道会場/中谷 通恵

「地域のネットワークがさらに強く」

ハイブリット形式で、広い北海道でも参加してみようとの思いにつながったと感じています。

また、5月初旬に「子どもとメディア北海道」主催で「ネット依存から子どもたちを守りたい！」をテーマにオンライン研修会を開いたり(25名に参加)、北海道新聞の全道版に掲載されたことで参加が広がりました。会場となった白老町では、教育長・学校教育課長・指導主幹・社会教育主事・教諭の参加があり、町内のネットワークが強まったことが大きな成果でした。